「見知らぬ私の地元」の探究（2）

前橋・大胡地区の古民家再生プロジェクト

2021 年度教育改革支援報告書

共愛学園前橋国際大学
国際社会学部 国際社会学科 国際コース
鈴木鉄忠ゼミ ４期生

まえがき

本報告書は、本学の教育改革支援を受けて行った2021年度の課題演習（鈴木ゼミ）4期生のゼミ活動記録である。

縁とはつくづく不思議なもので、計画よりもとんとん拍子で進むことがある。昨年度のゼミ生がお世話になった前橋市富士見地区のゲストハウスは2021年1月で閉業になった。そのため新たな活動拠点と協力者を探さなければならなくなった。そのようなときに舞い込んだのが“大胡ベース”だった。

大胡ベースは、前橋市大胡地区にある古民家とその周辺敷地である。雄大な赤城山と整形された田畑が広がる風景をみながら、車1台がようやく通ることができる小道を上っていくと、築75年の農家造りの古民家と納屋が現れる。すでに現代風の戸建て住宅がいくつも立ち並ぶなか、薪に火を付け、かまどでお米を炊く生活を守っていた古民家のご主人が、5年前に他界された。それ以後は日常的に使用されなくなっていた。

連休明けの5月上旬、前橋市移住コンシェルジュの鈴木正知さんが今回もつなぎ役になってくださった。古民家のオーナーであり、利活用を考えて市に相談をしていた荒木光枝さんとつながることができた。1か月後に4期生全員が大胡ベースを初めて訪れた（第3部「大胡古民家フィールドワーク（6/16）」参照）。ゼミの地域活動は、大胡古民家をベース（base：土台、基底、基礎、基地、拠点、本部、柱礎）に動きだした。

ただし「どこでやるか」は大胡に決まったが、「何をやるか」は試行錯誤だった。大きな転機の一つが、前期ゼミの中間発表会だった（第3部「ゼミ地域活動の中間発表会の議事録（7/28）」）。地域のプロ、荒木さんのご家族、市役所の方々、慶応義塾大学SFC飯盛研究室の学生さんがゲスト参加し、対面とリモートのハイブリッド方式で発表会を実施した。4期生は古民家の利活用のアイデアを「地域交流班」「イベント企画」「他大学交流」の3チームに分かれて発表した。

「一度、地域のコメをかまどで炊いて食べてみてはどうか。まずみなさんが体験してみたらどうか。そうでなければ食を教育することはできないはず」「体験に根差した頭や知識からアイデアを絞り出す作業をもっとやってみてはどうか。地域の人に聞いてみようというより、いっしょにやってみたい、の方がよいのでは」「このゼミでみなさんは何をどうしたいのか、正直言ってまだ見えてこなかった」。ゼミ生たちが精一杯投げた球に地域の方々が返したのはお世辞や差しさわりのないコメントでは全くなく、手加減なしの剛速球ばかりだった。大学の授業なら「失敗」に映るかもしれないが、広い意味での地域の授業なら、これほど収穫に満ちた発表はなかったと私は思う（ゼミ生たちは相当落ち込んでいたが…）。

今年度のキーワードは「体験」になった。英語はexperienceだが、日本語には「体験」と「経験」の2つがある。いずれも自分と世界の接触面で起こる出来事を見たり、聞いたり、試したりすることを意味する。ただし体験は、「実体験」「初体験」というように、自分の意志で見聞きし、自分の身体から湧き上がってくる感情や言葉にならない内容に力点がある。経験は、「経験値」「人生経験」で使われるように、自分の見聞やその報告、積み重ねや習得した知識・技能に重点がある。体験は「出来事の意味」に重きがあり、「他でもないわたしが感じた」主観的で具体的で一回的で個的なものだが、経験は客観的で一般的で、言語化され、自身のスキルとして身につくものである。

地域の方々がゼミ生に伝えたのは、「経験」ではなく「体験」だった。まずは大胡ベースに実際に行って、体をそこに置き、あなたの目、耳、鼻、舌、皮膚で感じ、自身の内側から湧き上がるこころの動き、喜怒哀楽を感じてみよう。そこから生まれるものと、地域が必要とするものを出し合うことで、今後、何をするのかを考えよう、ということになった。

報告書の第1部は、今年度の最初に立てたプランである。この通りになることはほとんどなかった。だが、ないよりあった方がよい。初期設定の変更点がはっきりわかるからだ。

第2部は成果報告である。目標は一つに絞り、その実現に組織の資源を集中せよ、とは組織論の原則である。だが4期生は最後まで1つに目標を絞ることにはならず、複数の取り組みが進んだ。むしろ「あえて目標を一つに限定しない」を選択した。そのおかげでおもしろい成果がいくつも生まれた。食体験イベント、ホームページ、任意団体の立ち上げは、一過性の打ち上げ花火というより、今後も続いていく「種火」になった。

第3部はフィールドワークとリフレクションの記録である。大胡ベースの初体験から食イベントの体験会まで、各自の立ち位置と目線で得た体験と経験が書き留められている。収録されたフィールドノーツは、清書版ではなく速記版のため、誤字脱字などがあるかもしれないが、とにかく記録に残すことを重視して、そのまま載せることにした。

資料編は、前橋・赤城スローシティ調査研究の基礎資料を収めた。

2021年度もパンデミックが収束しない難しい地域活動だった。ゼミ長の草光さんがみんなを鼓舞して引っ張り、副ゼミ長の田村君と茂木さんをはじめ、12名全員が自分の持ち場を探して一生懸命に地域で学んだ。4期生の蒔いた「種」は、今後2つの「鉢」で成長していく。一つは大学の学生プロジェクト「Kyaoi Slow City」であり、もう一つは地域の任意団体 スローなまちづくり「前橋赤城マイマイの会」である。

謝辞：本プロジェクトの実施にあたり、荒木光枝さんとご家族のみなさん、鈴木正知さん、吉田泰彦さん、檀原真広さん、小林哲二さん、北爪大輔さん、山本龍前橋市長、前橋市観光政策課の職員の方々にご尽力に深く感謝いたします。

目次

まえがき・・・3

目次・・・5

第 1 部　地域での学びの始まり

1. 学生プロジェクト「共愛×IRORI 場　Slow City Project」申請書・・・・・・・・9
2. 教育改革支援申請書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
3. 本学の SDGs の取り組み事例・前橋市包括連携協定・・・・・・・・・・・・・・22

第 2 部　地域での学びの成果

4. 学生プロジェクト「共愛×IRORI 場　Slow City Project」成果報告書・・・・・25
5. 任意団体・スローなまちづくり「前橋赤城マイマイの会」会則・・・・・・・・・38
6. 「ここすきマップ」改訂版・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41

第 3 部　地域での学びのプロセス

7. 電動自転車による大胡フィールドワーク（3/4）と成果発表（3/23）・・・・・・45
8. 大胡古民家フィールドワーク（6/16）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・56
9. 赤城山ミーティングの記録（6/23）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・79
10. ゼミ地域活動の中間発表会の議事録（7/28）・・・・・・・・・・・・・・・・・83
11. 夏の合同ゼミ中間発表会の記録（9/13）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・96
12. 大胡古民家における火起こしと栗おこわ体験会の記録（10/13）・・・・・・・・105
13. 大胡古民家におけるうどん作り体験会の記録（11/18）・・・・・・・・・・・・134
14. ONSEN ガストロノミーウォーキング（2/27）・・・・・・・・・・・・・・・・・161
15. ゼミ活動のリフレクション（12/21）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・175

資料編

16. 大胡古民家の歴史の聞き書き・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・179
17. 前橋市観光政策課のインタビュー調査トランスクリプト・・・・・・・・・・・181
18. 「地域づくり論」スローシティ座談会の記録・・・・・・・・・・・・・・・・・203
19. 生活協同組合パルシステム群馬 市民活動助成金制度申請書・・・・・・・・・・222

共愛学園前橋国際大学 国際社会学部 国際コース 鈴木鉄忠ゼミ
2021 年度 参加者一覧（氏名 50 音順・学籍番号・所属）

阿部　鈴夏　　192003　共愛学園前橋国際大学 国際社会学部 国際コース 3 年

稲川　千尋　　192006　共愛学園前橋国際大学 国際社会学部 国際コース 3 年

木村　朝香　　192019　共愛学園前橋国際大学 国際社会学部 国際コース 3 年

草光　うらら　192020　共愛学園前橋国際大学 国際社会学部 国際コース 3 年（ゼミ長）

佐瀬　楓佳　　192027　共愛学園前橋国際大学 国際社会学部 国際コース 3 年

島崎　眞采　　192029　共愛学園前橋国際大学 国際社会学部 国際コース 3 年

関　菜央好　　192030　共愛学園前橋国際大学 国際社会学部 国際コース 3 年

田村　銀河　　192040　共愛学園前橋国際大学 国際社会学部 国際コース 3 年（副ゼミ長）

並木　蓮　　192051　共愛学園前橋国際大学 国際社会学部 国際コース 3 年

町田　美桜　　192062　共愛学園前橋国際大学 国際社会学部 国際コース 3 年

宮村　有妃　　192067　共愛学園前橋国際大学 国際社会学部 国際コース 3 年

茂木　優羽奈　192069　共愛学園前橋国際大学 国際社会学部 国際コース 3 年（副ゼミ長）

指導教員・編集
鈴木　鉄忠　　共愛学園前橋国際大学 国際社会学部 国際コース 准教授

本報告書は、共愛学園前橋国際大学の 2021 年度教育改革支援費（研究代表者：鈴木鉄忠「「体験の言語化」を通じた地域の「コト」と「ひと」のフィールドワーク」）の成果の一部である。

2021 年度

共愛学園前橋国際大学　国際社会学部 国際コース

課題演習　鈴木鉄忠ゼミ　4 期生 報告書

発行日　　2022 年（令和 4 年）3 月 17 日
編集者　鈴木 鉄忠　suzuki-t@c.kyoai.ac.jp
発行所　共愛学園前橋国際大学
〒379-2192　群馬県前橋市小屋原町 1154-4
電話 027-266-7575　研究室直通電話 027-266-9256